

クラス番号	911	担当教員名	吉井 清子
テーマ	病い体験から学ぶ		
ゼミナール概要			
<p>目的、内容、方法等：</p> <p>人は病気を患うことで、大きな影響を受けることがあります。一生あるいは長期間その病気と共に生きていかなければならない場合、特にその影響は大きいでしょう。それは外部からわかりやすくなる場合もありますし、わかりづらい些細なこと（しかし本人にとってはとても重要）の場合もあるでしょう。それまで出来ていたことができなくなったり、人生の目標をあきらめなければならないこともあるでしょう。人生に絶望する人もいるでしょうが、病い体験を通じて新たに前向きな人生を歩み出す人もいるかもしれません。社会や医療・福祉に対して憤りや不満を感じることもあるでしょう。</p> <p>この基礎演習では、病気や障害をもつ人の声に耳を傾けることで、それぞれの人の人生に対して病気や障害がもたらした影響や意味や軌跡を理解していきたいと思えます。また、患者会や家族会などの当事者団体が持つ役割を具体的に理解していきます。</p> <p>どのような病気・障害や社会問題を取り上げるかについては、ゼミ生一人ひとりの問題意識を尊重しますが、他のクラスとの違いとしては以下の事を目安にしてください。</p> <p>①「地域保健学」を担当しているので、保健所や保健センター（や社会福祉協議会）などの地域ベースの機関と関係する当事者団体と接点があると考えています（難病系、精神障害系、家族介護者など）。</p> <p>②これまでの臨床経験や研究を通して関心のある病気・障害は以下のようなものです。 がん、糖尿病・腎不全などの慢性疾患、認知症などの高齢者を介護している家族、てんかん、など</p> <p>授業計画：</p> <p>基本的には、医療福祉コースの共通スケジュールに沿って進めていきます。詳細はゼミ生で話し合っ決めていきましょう。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>その病気の経験がない自分が、本当にその人やその家族のことを理解できるのかと悩むことがあります。そもそも理解とは何なのか、どのように理解してほしいと思っているのか、専門職に出来ることと出来ないことは何か、その人の悩みや苦しみは単に個人的なものと捉えて良いのか、など、様々なことをこの基礎演習を通して一緒に考えていきたいと思えます。</p>			